

拡がる業務アプリのクラウド化

中小企業こそ少ない初期投資で生産性向上を

日常の業務に欠かせないツール「Microsoft Office」だが、最近、導入が進んでいるのが、クラウド版の Office、「Office 365」だ。

『Office 365』はクラウドから継続的に新機能が提供され、常に最新の状態が保たれる。また、アプリをインストールすれば従来と変わらずインターネットがない環境でも使用できる。

なぜ今導入が進むのか、そのメリットについて日本マイクロソフトの鈴木哉氏にお話を伺った。

AIなどの最新機能やテレワークで業務を効率化

『Office 365』導入のメリットと



日本マイクロソフト
Microsoft 365 ビジネス本部
鈴木 哉氏

してまず挙げられるのが業務効率の向上だ。

「PowerPoint」には画像を貼り付けただけでAIがデザインを提案してくれる機能がある。そのうえ、ワンクリックで精度の高い翻訳もしてくれる。

「60か国語以上に対応しており、ビジネスのグローバル化が進む今の時代に不可欠な機能となるでしょう。このほか、話した言葉を即時テキストに変換してくれる機能も搭載しています（鈴木氏）。

さらに業務を円滑に進めるうえで欠かせないのが、コミュニケーションツール「Microsoft Teams」。

「Teams」は、チャットやビデオ会議機能で情報共有できるだけでなく、Officeドキュメントを直接表示・編集でき、共同作業の効率化を実現する。

たとえば、外回りが多く会議に出られない人でも「Teams」のビデオ会議を使えば、外出先からスマホで会議に参加したり、取引先

とファイルを共有しながら打ち合わせしたりできるようになる。

「いつ」「どこにいても」必要なデータにアクセスでき、テレワーク推進にもつながるだろう。

「最高裁判所の民事訴訟手続きのIT化でもMicrosoft Teamsが活用され、裁判期間の短縮や出張・移動にかかる費用と時間を節約しています」（鈴木氏）。

日々の業務を守る高いセキュリティ

セキュリティ面では、日本初となる「クラウドセキュリティワールドマーク」を取得している。Windows10との組み合わせにより最新セキュリティ対策が継続的に講じられるため、他のセキュリティソフトウェアを別途購入するコストは不要になる。

また、『Office 365』のサービスは、国内のデータセンターから提供されているので、データの安全性が非常に高く、災害時などにお

けるBCP対策としても有効だ。費用面でも、サブスクリプション型ならではの利点がある。

「初期投資が抑えられるのはもちろん、全額経費として処理できるのもお勧めしたい点です。現在、特典付きの乗り換えキャンペーンを実施しています。海外と比べ遅れていると言われているクラウド活用ですが、業務効率化のきっかけの1つとして役立てていただければ幸いです」（鈴木氏）。

2020年10月には、Office 2010のサポートも終了になる。この機会に一度、『Office 365』への移行を検討してみるのもよいだろう。

Office 365に移行するメリットは？

- 共同編集やAI、最新機能で時短を実現
- チームコミュニケーションが活発化
- 場所や時間に縛られない働き方を実現
- 常に最新のセキュリティを自動更新
- BCP対策にも有効なデータ管理環境

このほか、全額経費処理できる会計上のメリットも!!